

IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2010年4月号 (http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/22-newsletter/nl_2010.html)

「実行委員長あいさつ」

平成 22 年電気学会産業応用部門大会実行委員長
下村 昭二 (芝浦工業大学)



第 24 回の産業応用部門大会は、平成 22 年 8 月 24 日から 26 日にかけて、芝浦工業大学豊洲キャンパスで開催させて頂くことになりました。

芝浦工業大学の発祥の地はその名の通り港区芝浦ですが、そこには田町キャンパスがあります。豊洲キャンパスは、田町キャンパスから直線距離で約 4 キロ離れた江東区豊洲にあります。豊洲キャンパスは 2006 年に開設された新しいキャンパスです。豊洲は、産業、商業と居住機能、そして住民の憩いのエリアを融合した、東京の中でも注目されている新しく整備された街です。そんな新しい街に、近代的で機能的な設備を備えた都市型の豊洲キャンパスがあります。

都市は利便性の高いビジネス環境と住環境を与えてくれます。都内に二つのキャンパスを持つ芝浦工大もその恩恵を受けています。しかし、その恩恵は大量の CO2 排出との引き換えでした。今はそんな状況から脱却すべきときです。

東京都ではすでに「カーボンマイナス東京 10 年プロジェクト」が始動しています。このプロジェクトの目標は、「2020 年までに東京の温室効果ガス排出量を 2000 年比で 25%削減する」ことです。右の表は 2009 年 2 月に都から報告された「カーボンマイナス東京 10 年プロジェクト」施策化状況 2009 から引用した都内 CO2 排出の状況です。1990 年（京都議定書の基準年）と 2006 年の各部門の CO2 排出量の比較を示しています。この表からわかるように、東京では産業部門での排出量の割合が小さく、業務部門、家庭部門、運輸部門（自家用自動車も含む）が殆どを占めます。豊洲キャンパスがある江東区でも CO2 排出量の約 20%は家庭からの排出と言われています。この傾向は、地方とは異なる大都市特有の傾向ではないでしょうか。快適な都市生活を守りながら CO2 排出量を大幅に削減するためには、オ

フィスや一般家庭での削減が重要であることがよくわかります。

そこで本大会では、「快適な都市生活と地球環境の調和を考える。」をテーマに掲げ、特別講演や特別展示を企画します。この大会は貴重な研究成果を発表していただく場をご提供するだけでなく、特別講演と特別展示は近隣住民の方々にも公開し、**Stop the global warming** を大会参加の方々とともに考え、電気学会産業応用部門が担ってきた、そして担っていく役割を理解していただく良き機会にしたいと考えています。

新しい街豊洲は、古き良さを残す深川下町のエリアでもあります。Web で“深川下町散歩”と検索してみてください。深川界限の散策コースを見つけることができます。また、レインボーブリッジを臨むお台場、築地市場、もんじゃ焼で有名な月島などがすぐ近くです。東京へは仕事でよく行くという方も、大会の合間に“ビジネス都市東京”だけでなく、古き情緒も楽しんで頂けると思います。

平成 22 年産業応用部門大会への皆様のご参加を心からお待ちしております。

単位：万トン

		1990 年	2006 年	増減率
都内全体		5440(100%)	5590(100%)	2.8%増
内訳	産業部門	980(18%)	520(9%)	46.9%減
	業務部門	1570(29%)	2060(37%)	31.2%増
	家庭部門	1300(24%)	1440(26%)	10.8%増
	運輸部門	1480(27%)	1470(26%)	0.7%減
	その他	100(2%)	100(2%)	

(注) 各部門 (CO2 排出量の排出区分) の説明
<http://www.env.go.jp/earth/ondanka/ghg/>を参照ください。